目　次

1　はじめのうた
2　季節のカード（行事編）
3　俳　　句　　内藤丈草　与謝蕪村　小林一茶
4　あそびうた　　ことばの足し算
5　早口ことば　　「子鴨が小米かむ」
6　かぞえうた　　１本　１台　１両　　（にんじん、電話、電車）
7　今月の詩　　川　上　　北原白秋
8　た し 算　　順番足し算
9　ことわざ　　七転び八起き　　猫にかつお節
　　乗りかかった船　寄らば大樹のかげ
10　う　　た　　わけっこのうた
11　なぞなぞ
12　手あそびうた　お弁当箱のうた
13　今月のうた　　ゆきのうた
14　四字熟語　　意志薄弱　誠心誠意　大器晩成
15　おはなし　　みにくいあひるの子
16　童　　謡　　うさぎとかめ
17　イメージトレーニング　　森のお友だち（第11話　となりの森へ）
　　（イメージしてみましょう）
18　漢　　詩　　早に白帝城を発す
19　百人一首　　源宗于朝臣　順徳院　大江千里　天智天皇
20　復習コーナー
21　暗　　示　　（静かなところで目を閉じて聞きましょう）

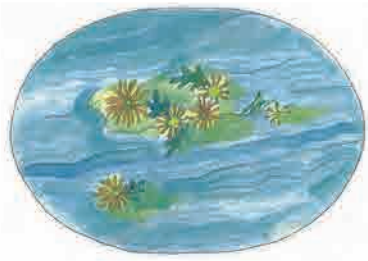
俳　句

幾人か　時雨かけぬく　勢田の橋

内藤丈草

冬川や　ほとけの花の　流れ去る

与謝蕪村



大根引き　大根で道を　教えけり

小林一茶

《ことばの足(た)し算(ざん)》

ことばとことばを　たしざんすると

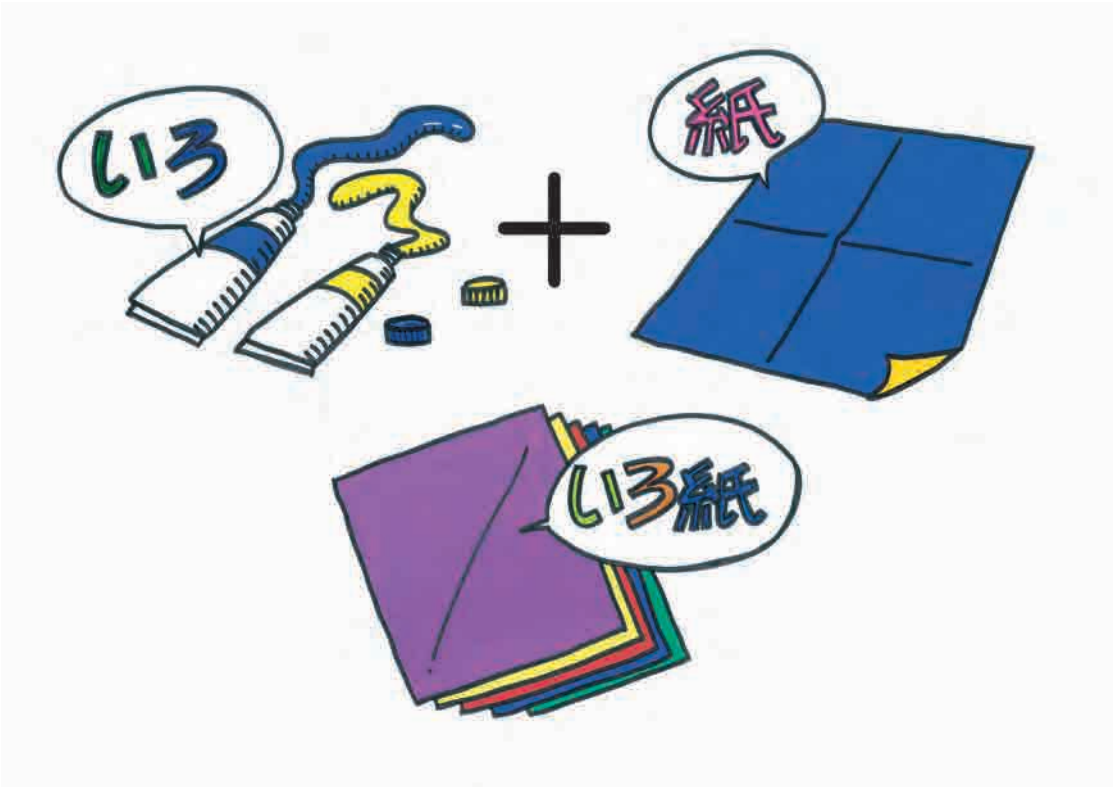
ちがったものに　なっちゃうよ

紙(かみ)たす いろは　いろがみだ

雪(ゆき)たす だるま　ゆきだるま

箱(はこ)たす ふでは　ふでばこだ

ことばのたしざん　たのしいね



今月の詩

川上（かわかみ）

北原白秋（きたはらはくしゅう）

むかしのむかしの日和山（ひよりやま）、

ながれのながれの水（みず）の音（おと）、

今（いま）でも川上（かわかみ）ゃなつかしい、

大（おお）きなお桃（もも）はなつかしい。

ことわざ

七転び八起き

七回転んで八回起きる。たびたびの失敗にも屈せず、奮起すること。

猫にかつお節

猫にかつお節の番をさせるように、好物を近くに置くことは、あやまちを起こしやすくて危険であること。

乗りかかった船

何かを始めた以上、途中でやめるわけにはいかなくなること。

寄らば大樹のかげ

木の下に身を寄せるなら、小さな木より大木の下のほうがよい。頼る相手を選ぶならば、力のある者のほうが得である。

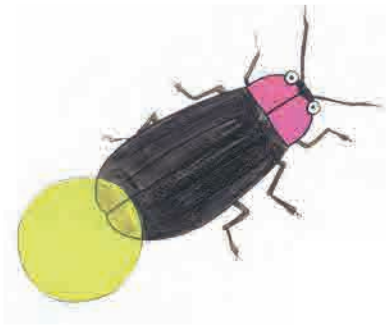
なぞなぞ

1　つのがあるのは、おすだけ。力持ちの虫はなあに？

2　枯れ葉や小さな木の枝で作ったお家の中でいつもぶらんこしている虫はなあに？

3　晴れている日には、あんまり目立たないで、糸をはく虫はなあに？

4　おしりがひかる虫はなあに？



《お弁当箱のうた》

① これくらいの
おべんとばこに

ひとさしゆびで
しかくを２かいかく

② おにぎり
おにぎり

おにぎりを
つくる

③ ちょっとつめて

ひだり手をみぎ手で
３かいたたく

④ きざみしょうがに

ひだり手をまないたに
して、みぎ手でトントン

⑤ ごましおふって

りょう手をパッパッと
４かいひらく

⑥ にんじん

りょう手のゆびを
２ほんたてる

⑦ さん

りょう手のゆびを
３ぼんたてる

⑧ さといも

⑨ さん

りょう手のゆびを
３ぼんたてる

⑩ しいたけ

⑪ さん

４ほんたてる

⑫ ごぼう

⑬ さん

５ほんたてる

⑭ あなのあいた
れんこんさん

おやゆびとひとさし
ゆびでまるをつくり、
左右にゆらす

⑮ すじのとおった

みぎ手でひだりの
うでを下から上へ
さわる

⑯ ふ

みぎ手をくちに
もっていき、いきを
ふーっとはく

⑰ き

手をパーにして
まえにだす

⑱ ※２番
～ ありさんのおべんとうばこ

ゆびで小さなおべんとう
ばこをつくる

⑲ ※３番
～ ぞうさんのおべんとうばこ

からだぜんたいで大きな
おべんとうばこをつくる

今月のうた

《ゆきのうた》

寒い空を　見上げてごらん
白い天使が　おりてくる

さらさら雪は　粉雪で
おおきな雪は　ぼたん雪
みぞれは　雨といっしょに　おりてくる

雪は　小さな氷が　仲良くあつまり　くっついた
雪を　大きくしてみると
きれいな結晶　たくさんあるぞ
キラキラ　キラキラ　まるで宝石みたい

意志薄弱（いしはくじゃく）

意志が弱く、忍耐に欠け、自分の判断で物事を行えないこと。

誠心誠意（せいしんせいい）

いつわりのない心（こころ）。まごころ。

大器晩成（たいきばんせい）

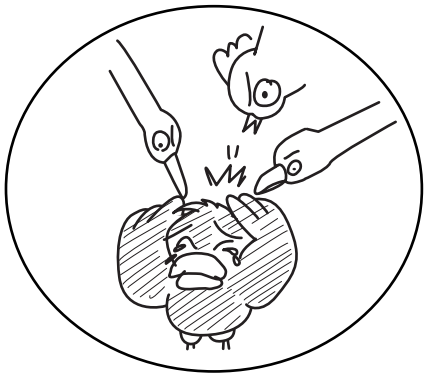
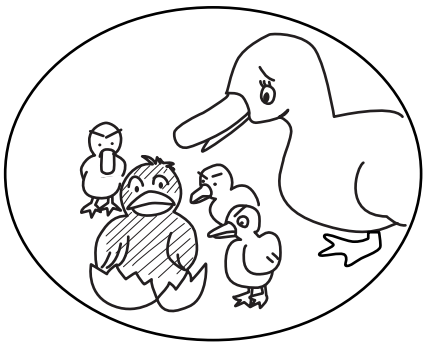
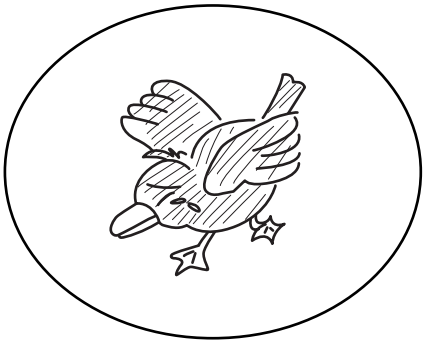
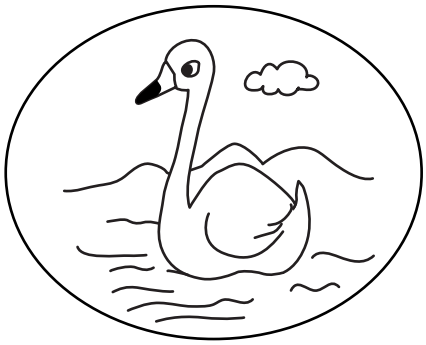
大人物（だいじんぶつ）となる人間（にんげん）は、才能（さいのう）が表（あらわ）れるのは遅（おそ）いが、徐々（じょじょ）に立派（りっぱ）な人物（じんぶつ）になっていく。

おはなし

みにくい あひるの子

「みにくいあひるの子」は、あひるの子に間違えられた白鳥の子のお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

1　卵は全部でいくつありましたか。
2　最後の一つから生まれた子は、どんな色をしていましたか。
3　農場を飛び出したあひるの子は、どこに行きましたか。
4　湖にいた三羽の鳥は、あひるの子に何と言いましたか。
5　川のそばを飛んでいて、あひるのお母さんに会ったとき、あひるのお母さんは、何と言いましたか。

早に白帝城を発す

李　白

朝に辞す　白帝　彩雲の間
千里の江陵　一日にして還る
両岸の猿声　啼き住まざるに
軽舟已に過ぐ　万重の山

百人一首

山里は
冬ぞ寂しさ　まさりける
人目も草も　かれぬと思へば

（源宗于朝臣）

ももしきや
古き軒端の　しのぶにも
なほあまりある　昔なりけり

（順徳院）

月見れば
千々に物こそ　かなしけれ
わが身一つの　秋にはあらねど

（大江千里）

秋の田の
かりほの庵の　苫をあらみ
我が衣手は　露にぬれつつ

（天智天皇）

源宗于朝臣